

2022 年 1 月 13 日

CPMI 市中協議文書「Extending and aligning payment system operating hours for cross-border payments」に対する意見

一般社団法人全国銀行協会

全国銀行協会として、CPMI から 2021 年 11 月 18 日に公表された市中協議文書「Extending and aligning payment system operating hours for cross-border payments」に対して意見を述べる機会を与えられたことに感謝の意を表したい。

本件が検討されるに当たり、我々のコメントが CPMI におけるさらなる作業の助けとなることを期待する。

以 上

**「Extending and aligning payment system operating hours for cross-border payments」質問事項への意見等**

Questions for consultation	意見案
<p>1. Can the extension of real-time gross settlement (RTGS) systems' operating hours materially contribute to achieving the cross-border payments targets endorsed by the G20, especially in terms of speed? Please explain.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 条件による。送金のスピードの向上には RTGS システムだけでなく各主体の営業時間の拡大が必要。RTGS システムが比較的大きな金額の送金と紐づくことを考えると、企業のニーズと流動性の考慮は不可欠。多くの企業が通常の営業時間外に資金を受領することを望まないなら、流動性も限られる。なお、インターバンク間の資金調達等の面から考えると、為替取引は時差の関係で Value Today で決済できず翌営業日決済に回している取引が Value Today で決済できることは期待ができるものの、FX(Foreign Exchange)を T+0 にすることでスピードの向上を目指す場合、PVP(Payment-Versus-Payment)の仕組みや流動性に与えるインパクトは慎重に検証する必要があるものとする。</li> <li>✓ G20 の speed target は「75%の CB remittance の 1 時間以内着金、その他 (25%)については within one business day, by end-2027」であり、時間外・夜間に受信して翌日持ち越している件数が 25%よりも多いのかは要確認(実質的には本邦においては貢献出来る余地は少ないものとする)。</li> <li>✓ 国内の RTGS システムにおいては、グローバルに重複する決済時間帯をカバーしているため、スピードの改善幅は限定的と考えられる。</li> </ul>
<p>2. What additional actions would be needed by the public sector and/or private sector entities, beyond those described in the G20 roadmap (see Annex 3 of the current report), to facilitate the extension of RTGS operating hours and realise the benefits that could result from extended RTGS operating hours?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ RTGS システムの稼働延長によるメリットを享受する参加者の拡充。関係するその他決済制度(債券市場など)を併せて延長しなければ、稼働時間のみ延長したとしても、利益を実現することが出来ない。</li> <li>✓ RTGS システム稼働時間を何のために延長するのかおよび関連する課題の明確化が必要。</li> </ul>
<p>3. What benefits for cross-border payments other than speed do you perceive would accrue from an extension of RTGS operating hours? What additional domestic benefits for a jurisdiction do you perceive?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加者拡充が大前提になるが、為替取引の拡充や、参加者のシステム障害や事務ミス等に起因する決済遅延に対応可能になることは、期待できる。</li> <li>✓ ただし、本邦の証券決済においては、国債の決済が既に 21 時まで延長されているが、夕方以降の時間は当日フェイルした取引のリカバリ程度にしか使われておらず、延長したことにより取引が活発化されたということはない。資金決済の時限が広がることで増えるかもしれないが、顧客からも強く要請されている状況にはなく、また、顧客から相談の増加している担保取引の場合、資金は動かないので、時間延長のメリットも限定的。</li> </ul>
<p>4. How well do the three identified end states capture key scenarios that individual central banks/RTGS system operators should consider as they assess current RTGS operating hours and plan for the future? What additional end states or refinements to the end states would you suggest?</p>	<p>RTGS システムの稼働時間のみ注目すべきでなく、エンドステートはより広い観点で考慮されるべきである。なお、いずれのエンドステートにおいても、民間企業や公的機関には負担が追加され、例えば、RTGS システムの稼働時間延長に伴い、追加リソースの割り当てや決済システムの開発が必要になる。</p>
<p>5. Which end state, out of the three identified or another one you may want to consider, do you believe strikes the best balance between improving cross-border payments and managing the associated challenges?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ エンドステート 1 が、潜在的な利益と追加的な負担という点で最もバランスがよいと考える。</li> <li>✓ なお、3 つのエンドステートの前に、稼働時間延長により、時差の無い決済を実現する為には、グローバルに重複する決済時間帯の概念をどう考えるかの整理は極めて重要であり、FX 取引のあり方を含めた、各国の決済制度のあるべき姿を検討する必要がある。</li> </ul>
<p>6. If the RTGS system in your jurisdiction has not yet reached the end state signalled in the previous question, what time horizon (number of years from now) would you envision for reaching it?</p>	<p>N/A</p>
<p>7. As a result of end state 3, which involves 24/7 RTGS operating hours, do you anticipate demand for 24/7 operations of RTGS systems in the future? If so, what do you expect to be the main drivers and over what time horizon do you expect this to happen?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現状のコア時間外取引の実態に照らしても、現時点でニーズは無いと考える。</li> <li>✓ 24/7 着金して意義があるのは、受信側もその資金を 24/7 でモニタリングしたり、次の取引に充てるためのフレームワークがあつてこそであり、そうしたニーズと取り組みとセットで決済時間の延長を考えるべき。そしてその Time Horizon についてどうかという問いに対しては、広く社会的ニーズとしてそうした時代が来ることは少なくともこの G20 のクロスボーダー送金の改善のタイムフレームのなかでは考えにくい。</li> </ul>
<p>8. Would your organisation make use of and/or benefit from extended RTGS operating hours?</p>	<p>過去の決済システムの稼働時間延長での顧客意見も踏まえると、本邦仕向送金は営業時間以降の送金依頼ニーズ、被仕向送金の着金早期化ニーズ(利益)は乏しいと考える。</p>
<p>9. How useful do you view the global settlement window as a concept for considering the aggregate implications of extensions to RTGS operating hours in individual jurisdictions? What alternatives or refinements, if any, would you propose in order to consider the aggregate</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 稼働時間延長により、時差の無い決済を実現する為には、グローバルに重複する決済時間帯の概念をどう考えるかの整理は極めて重要であり、FX 取引のあり方を含めた、各国の決済制度のあるべき姿を検討する必要がある。その上で、グローバルに重複する決済時間帯を拡大(=稼働時間延長)できるかを検討する必要がある。夜間や休日着金した資金を活用する市場や社会的ニーズとこれを支える決済以外のインフラが整備される方向性になれば、時間延長に莫大な投資をする意義は見いだせない。なお、FX 取引を伴わない送金であれば、RTGS システムがグローバルに重複する決済時間帯の概念は重要ではないと考える。</li> </ul>

Questions for consultation	意見案
implications of extensions to RTGS operating hours in individual jurisdictions?	✓ BOX3 のユースケース（ユーロ圏とインドネシア）は FX や銀行口座体系の想定を明確にすべき。BOX3 のユースケースは、資金を受け取った企業が資金を何に使えるかも考察すべき。
10. To what extent have the operational and risk considerations related to an extension of RTGS operating hours been adequately identified? What additional considerations would you consider relevant?	ビジネス面の分析や、システム対応、人的リソース(事務体制)の確保も考慮されるべきである。
11. What would you identify as the top five considerations related to an extension of RTGS operating hours in your preferred scenario (Q5)?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対応コスト（人的リソース、システム 等）</li> <li>・ 顧客ニーズ</li> <li>・ 各決済網との連動</li> <li>・ 稼働時間延長に関する制度対応やガイドラインの制定</li> <li>・ 実現の容易さ</li> </ul>
12. To what extent do the relevant considerations differ substantially depending on the end state being considered?	エンドステート 1 に比し、エンドステート 2 および 3 は、その対応コストや実現性の観点から困難。
13. For the top five considerations that you identified in Q11, what mitigation measures could be taken to address them?	直ちに行える緩和措置はないと考える。
14. In your view, to what extent will the above measures require coordinated action by industry participants and/or support/guidance from authorities, such as central banks, standard-setting bodies and supervisors (as opposed to actions by individual stakeholders)?	RTGS システム稼働時間延長における影響は、多岐に渡るため、中央銀行・監督当局による支援やガイダンスは必須。ただし、システム投資および人的リソース(事務運用)に係るコストは甚大になるため、参加者の拡充が無ければ現実的ではない。
15. If you are a stakeholder of an RTGS system that has extended its operating hours in the recent past, what were the key lessons learnt?	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 顧客ニーズの把握が重要。RTGS システムの稼働時間延長に対応するために、システム投資および人的リソースの確保が必要になるが、ニーズが無ければ、保守や事務体制維持の負担のみ増すことになる。なお、RTGS システムの稼働時間延長自体は夜間に資金を受け取ることへの需要を喚起しない。多くの企業は追加コストをかけてまで夜間決済を行うことに強いニーズはないものとする。</li> <li>✓ 過去に中央銀行が実施した事業法人向けクロスボーダー円建て決済サービスに関するアンケート調査によれば、本邦金融機関および事業法人は、労務・管理面に鑑み、夜間時間帯の送金には慎重なスタンス。</li> <li>✓ 決済制度の稼働時間延長だけでは、ユーザーの利用は伸びず、各金融機関・事業法人の夜間時間帯の送金事務に関する労務・管理面のネックを解消する為、完全なシステム化/STP 化の取り組みを合わせて検討する必要がある。その場合も流動性やビジネス面のフィージビリティは大前提となる。加えて、延長時間帯に資金繰りを行える市場環境の整備が必要であるとする。</li> </ul>

以上